

サイ・テク こころ 知と技の発信

【166】

埼玉大学・理工学研究の現場

近年、地球温暖化、生物多様性の減少、水質汚濁など河川環境にも関連した環境問題が生じており、その問題は相互に関連し複雑化している。

その一方で、河川管理に必要な予算は年々縮小され、予算投

■河道内の樹林化

中・上流域の河川環境問題の



やぎさわ・しゅんじ 1980年生まれ。2009年3月埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。同年4月より現職。専門は河川環境工学。

河川環境問題とその対策

八木澤 順治 大学院理工学研究科 助教

一として河道内の樹林化問題がある。樹林化問題とは洪水攪乱(かくらん)の規模や頻度の減少などにより河道内の植生が過剰に繁茂することである。河道内の植生は特に都市域にとっては貴重な環境要素である一方で、植生が過剰に繁茂すると洪水の流下能力を低下させ、氾濫の危険性を高めてしまう側面もある。過剰繁茂を防ぐ対策として河道内断面を掘削し、洪水時の外力を高めることで植物の流失を促す試みが全国で実施されている。

■干潟の消失

また、下流域の河川環境問題としては貴重な環境要素であるのひとつとして干潟の消失がある。干潟とは潮汐による海水面上記のような種々の外力に対する上下変動がある場所で、時間の経過とともに陸地と海面下になることとを繰り返す地形である。干潟は一般的には流下してき

■改善活用の技術提供

今後の河川事業においては、有機物質や栄養塩を貯留、分解することで水質浄化機能を有しているほか、多様な生物相が存在できる重要な生息場となる。近年では、人工的に干潟を造成する試みが行われている。そのため、諸現象の解明だけでなく、対策の立案などを通して、下流河道ではさまざまな規模や時間スケールの異なる外力(例えば潮汐、洪水、航走波(船舶の航行によって生じている)の程度掘削すれば長期的に植生の過剰繁茂を抑えることができるのかといった河川管理に活用可能な対策方法を検討している。そこで研究室では異なる地形

埼玉経済

企業、団体、商店街などの話題や情報をお寄せ下さい
TEL 048・795・9161 FAX 048・653・9040